

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価結果概要表

作成日：平成21年5月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201150		
法人名	有限会社アクシル		
事業所名	グループホーム「ウッドランド」		
所在地	(〒 651-2136 ) 兵庫県神戸市西区中野 1 丁目 1 - 1		
	電話	078-921-5424	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区荻乃町 2 丁目 2 番14-703号		
訪問調査日	平成21年3月27日	評価確定日	平成21年5月20日

【情報提供票より】 [平成21年3月18日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	2ユニット (利用定員…計18人)		
職員数	21人	(常勤8人) (非常勤13人)	/ 常勤換算15人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	地上2階建て建物の 1階～2階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,800円	その他の経費(月額)	24,300円	
敷金の有・無	有り ( 円 ) ・ 無し			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	有り (180,000円) ・ 無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無	有り ・ 無し	
食材料費	朝食	300円	昼食	550円
	夕食	550円	おやつ	300円
	または、1日あたり			円

(4) 利用者の概要 (平成21年3月1日 現在)

利用者人数	計18名	… (男性4名) (女性18名)	
要介護1	2名	要介護2	7名
要介護3	7名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均83.4歳	… (最低61歳) (最高98歳)	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	若宮病院	みどり病院	松本歯科医院
---------	------	-------	--------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

スウェーデン木材を使用し、外観もお洒落な佇まい。ホーム内は、廊下幅も広く確保され、また、利用者は気が向けば、いつでもウッドデッキに出て外気に触れることのできる“開放的な”つくりになっている。、天気の良い日は、利用者はウッドデッキでお茶をしながら会話を楽しんでおり、1階・2階の利用者のコミュニケーションを図る場になるなど、建物の機能がケアに上手く活かされている。また、日常生活において「食事を楽しむ」ことを大切にしており、献立、調理から後片付けに至るまで、利用者職員で語り合いながら協働で行っていた。菜園では無農薬の季節野菜を育てており、収穫した物が食卓に並ぶことも多い。トッグセラピーにも取り組み、これも利用者へ癒しのひと時になっている。  
◎参考に、前回の外部評価時(H20年)の資料写真も添付

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) ①地域住民との合同による避難訓練の実施を検討中。②災害時の対応について、中野地域消防団との連携を進めている。③家族等への報告として、毎月利用者一人ひとりの日々の様子をお知らせする便りを送付するようになった。利用者別のアルバムづくりも行っている。
	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:第三者4) 施設長、管理者、計画作成担当者が取り組み、まとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:第三者4, 5, 6) 2か月に1回、利用者代表、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、地域住民、ホーム職員が参加し、ホームの近況や行事予定のほか、地域行事への参加、地域貢献について話し合っている。会議では、地域密着型サービス運営指針についても検討しているところである。ホームでは、地域の方の介護相談を受けており、“身近な介護相談所”として機能しはじめています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 毎月1回、行事の写真やたくさん盛り込んだホーム通信と、利用者ごとの日々の様子を伝えるお便りを家族へ送付している。運営推進会議に参加できない家族に対しては、議事録を送付している。会議での検討を希望する内容やご意見を、家族より募り、討議して運営に活かしてゆきたいと考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 民生委員や自治会長から地域行事についての情報を得ている。中野出会公園の植樹祭に入居者と職員と一緒に参加し、「ウッドランドの木」を植えたり、中野地域文化祭に入居者と職員の協働作品(ちぎり絵)を出展するなど、地域の行事や自治会に積極的に参加し、交流を図っている。

◎ホーム外観



◎役割、楽しみごと、気晴らしの支援

▽ティータイムには、のんびりデッキで語らい…



◎食事を楽しむことのできる支援

▽菜園で、その日の食材を収穫



◎居心地のよい共用空間づくり

「季節」を意識した作品も飾って…



▽昼食（野菜はすべて菜園の収穫物）



◎居心地よく過ごせる居室の配慮

部屋には使い慣れた家具、小物を…



▽人形の洋服づくりなども楽しんで…



▽献立～後片付けを協働で…



## 2. 第三者評価結果票

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今まで通りの誇りを持った暮らし」を理念の掲げ、自宅での生活スタイルを大切に、ホームでの暮らしが家庭の延長となるように支援している。地域密着型サービスとしての運営指針について、運営推進会議で検討している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や更衣室に掲示し、入職時には配布し、知らせている。管理者と職員は、理念を念頭に、日々の業務に取り組めるようにしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物に出掛けた時には、地域の方と気軽に挨拶をしている。中野小学校の運動会など地域の行事に参加し、交流を図ってる。地域交流の一環として、キャラバンメイトの講習会に参加をし、地域の方に向けて認知症サポーター研修の開催を検討している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果をもとに、全職員で話し合いの場を持ち、改善方法など検討してサービス向上に前向きに取り組んでいる。	○	職員は、評価結果の検討はもちろん、職務の振り返りの機会として自己評価表の作成に出来る限り参加してもらいたい。



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、利用者代表、家族、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、地域住民、ホーム職員が参加し、ホームの近況や行事予定を報告し、また、地域行事への参加、地域貢献について話し合っている。地域包括支援センターの協力を得ながら、権利擁護や介護保険制度等の地域向け勉強会の開催を検討している。		
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所や市役所の担当者と頻りに連絡をとり、連携を図っている。入所相談の問い合わせの対応をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者ひとり一人の日々の様子を書いた家族への手紙と、ホーム通信を発行し、日常の暮らし振りや職員の異動などについて伝えている。面会の際には、家族と話し合う時間を持つようになっている。金銭管理については、毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、職員に直接言いにくい事は匿名で書いて頂けるようにしている。面会時や電話連絡時に意見や要望を気軽に言えるような雰囲気づくりを心掛けている。年1回の家族会や外食会を企画し、家族と交流できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の不安や要望を聴く機会を設け、職員が離職することにならないよう、その環境作りにも努めている。職員の異動時は、柔軟な勤務体制をもとに重複期間を設け、利用者への影響に配慮している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には、現任職員がペアになり、一緒に業務を行い丁寧に指導している。研修期間終了後も、管理者が指導を行い、不安を取り除くよう努めている。内部研修は、研修内容から資料づくりまで職員が交代で行っている。外部研修の実施に先がけ、内部研修の充実に取り組んでいる。	○	新人研修マニュアルを作成することで、新人職員と指導する現任職員の双方にとってスキルアップの機会にしていきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区グループホーム連絡会に職員が交代で参加し、同業者と交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して利用して頂けるように、自宅に訪問して、本人から困っていることや不安なことを傾聴する機会をつくり、信頼関係を築く努力をしている。見学時には、職員や他の利用者と会話してもらったり、一緒にお茶を飲んでもらうなど、ホームの雰囲気に馴染めるように工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの皆は大きな家族であるとの考えのもと、一緒に外出したり、食事や家事を行い、支え合いながら生活しているという気持ちで接している。入院した利用者をお見舞いした際、「早くホームに帰りたい。」と言ってもらったことにもやりがいを感じており、また、日々、利用者からの職員への気遣いの優しい言葉にも励まされることも多い。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの希望や言葉を記録した申し送りノートを活用して、利用者の思いや意向の共有に努めている。思いや意向の把握が困難な利用者は、言葉や日々の様子から、本人本位に意向を推量している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を決めて、日々の利用者との関わり中で利用者の様子を記録し、職員全員で話し合っ、介護計画を作成している。家族の来訪時に意見を聴き、また、訪問できない家族には電話にて要望を聴き取り、ケアプランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画を見直し、また、利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者、家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。申し送りノートやケア記録で情報を職員間で共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問理美容、訪問歯科を利用している。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日に往診を受けており、主治医との信頼関係を築いている。かかりつけ医への受診の希望があれば、それを支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、終末期ケアは行っていないが、対応できるように職員間で話し合いをもっている。早い時期から、本人、家族、主治医と話し合い、情報を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の自尊心を傷つけないよう、尊敬の心で接している。個人情報外部へ漏れることがないよう、取り扱いに注意しており、誓約書も交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活歴を尊重し、今までの暮らしが継続できるように支援している。「大家族」がゆえに味わえる楽しみを与えられるよう、心掛けてもいる。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で育てた無農薬の季節野菜を調理し、食べて頂いている。食事中はテレビを消し、他の方との会話を楽しんで頂いている。おやつは、季節らしさのあるものを手作りしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、お風呂を沸かしているので、日中、希望があればいつでも入浴できるようにしている。利用者のペースでゆったりと入浴してもらい、季節湯なども楽しんでもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や、得意なことを活かした役割を持ってもらっている。地域のボランティアセンターの方によるドッグセラピーや、ピアノ演奏のボランティアと一緒に懐かしい歌を歌うなど、楽しみごとの支援をしている。季節を感じてもらえるように、菜園で無農薬の野菜や果物を利用者と協働で育て、収穫している。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	喫茶店や散歩、理美容など、一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。天気の良い日は庭でお茶を飲んだり、ボール遊びなどを行い、戸外で過ごしてもらっている。自治会主催のもちつき大会や中野地域文化祭にも、利用者と職員と一緒に参加している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関事務所で職員による見守りが可能なときには、鍵をかけないようにしているが、ホーム前の道路の交通量が多いことから、見守りが難しい場合や夜間においては安全上施錠している。		



外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を実施している。災害時に備え、地域消防隊(中野消防隊)に、利用者の救助のために建物の内外を確認と、利用者や職員の人数を把握してもらっている。利用者の個人情報に配慮しながら、地域消防隊との連携を進めている。AEDの職員向け研修を予定している。	○	地域住民、利用者家族、職員の参加による心肺蘇生法やAEDの講習会の開催について、運営推進会議で検討されてはどうか。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分量は、把握しており、日々記録している。これらが少ないと判断した場合は、主治医に相談し、指示を仰いでいる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、利用者と職員が一緒に作ったちぎり絵などの作品を飾り、季節を感じてもらえるようにしている。毎週、花を注文し、利用者に生けてもらい、玄関に飾っている。室温等を調整し、居心地良く過ごして頂けるようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間となるように、居室にはご自宅より馴染みの物や、使い慣れた家具や調度品、仏壇など自由を持ち込んでもらっている。足りない物は一緒に買いに行ったりしている。		

※  は、重点項目。